

コーディネーター通信

令和6年 2月7日(金)発行

支援部 NO. 4

都立品川特別支援学校長 田島 忍

特別支援教育コーディネーター 白田まゆみ

12月に「品川区立浅間台小学校」と「品川区立品川学園」の2校が本校に来校し、小学部2年生、4年生、中学部2年生と『学校間交流』を行いました。また、冬季休業中には理解推進事業として、研修会を実施しました。今回はこの2つの御報告と、裏面には2月の個別面談に向けてのお願いを掲載しています。ぜひ御覧ください。

—学校間交流について—

① 小学部2年生と「品川区立浅間台小学校 2年生」

12月5日(木)に出し物発表とダンス玉入れの交流をしました。本校からは、音楽で学習した「きのこ」のダンスを披露しました。音楽の授業以外にも、各クラスで練習を重ねてきたこともあり、当日は緊張する様子もなく、楽しく、かわいらしく踊ることができました。浅間台小学校からは、ダンスと合唱の発表がありました。息がぴったりの発表に、拍手をたくさん送りました。ダンス玉入れは、本校2年生の得意な種目。浅間台小学校の皆さんも事前に練習をしてきてくれて、とても盛り上がりました。終わった後、「もっとやりたい!」という嬉しい声上がるほどでした。勝ち負けのない玉入れで、楽しく交流をすることができました。(担当:渡邊)



② 小学部4年生と「品川区立品川学園 支援学級(1~6年生)」



12月6日(金)に出し物発表とダンスの交流をしました。司会やあいさつは、本校の児童が担当しました。本校からは、学習発表会で発表した「フレンドライクミー」と「幸せなら手を叩こう」を披露し、たくさん練習した曲なので、自信をもって踊ることができました。品川学園からは「喜びの歌」の楽器演奏があり、とても素敵でした。その後、二人組で踊る「キンダーポルカ」を、品川学園の児童とペアになって踊りました。初めて会うお友達とも、楽しく踊ることができました。4年生は2回の交流を予定しており、2月17日(月)に品川学園に行く予定です。こちらも楽しみです。(担当:樺澤)



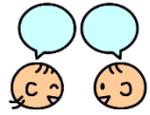
③ 中学部2年生と「品川区立品川学園 支援学級(7~9年生)」



12月4日(水)に「スポーツリバーシ」で交流をしました。まず、3チームに分かれて自己紹介をし、好きなものなどを通して、友達を知ったり、共通点を見付けたりすることができました。チーム名決めでは、アイデアを出し合って「チームあげぼん」「マリオチーム」「チームにこにこ」という素敵な名前に決まりました。スポーツリバーシはチーム対抗戦で行いました。白熱した雰囲気の中、お互いの友達を思いやる言葉掛けや声援が飛び交いました。表彰式では、スペシャルメダルの贈呈が行われ、会場は大きな拍手に包まれました。一緒に力を合わせて楽しむ、笑顔がたくさんあふれた交流会となりました。(担当:五十嵐)



2月の面談に向けて(保護者の皆様へ)



『学校生活支援シート』について

2月14日(金)に、担任が今年度の成長の様子や次年度への引継ぎを記入した『学校生活支援シート』を配布させていただきます。

- ・支援機関なども含めて、修正箇所がありましたら赤字で御記入ください。
- ・修正箇所がなければ、裏面の「保護者署名欄」に日付と保護者名を御記入ください。
- ・面談時にお持ちください。

来年度の目標などについても、今年度の成長を踏まえて御相談させていただきます。

副籍交流について

先月御提出いただきました『令和7年度副籍希望書』につきましても、何かありましたら、御相談ください。

転居について

転居の予定がある方や検討されている方は、早めに担任までお知らせください。



—特別支援教育 理解推進研修会について—

12月27日、令和6年度 特別支援教育理解推進研修会を本校にて実施しました。慶應義塾大学文学部心理学専攻准教授の北 洋輔先生をお招きして、「通常の園・学級で特別な教育的支援を要する子供への気付き」～品川区専門家訪問相談を通して～というテーマで御講演いただきました。80名を超える地域の幼稚園、保育園、小中学校、就学前機関の先生方にお集まりいただきました。

今回の研修会では、特別な教育的支援を要する子供に必要な指導・支援につなげる第一歩として、周りの指導者、支援者の「気付き」の大切さやその意義について学ぶことができました。

<「気付き」の3つのポイント>

①つまづいている子供に気付くための視点

★同学年、同年代との比較：○年生ならこれができるというポイント＝横の視点

★昔の子供との比較：対象児の小さい頃から今の状況の比較＝縦の視点

②一人の気付きから複数の人の気付きへ（確からしい気付きにする）

★保護者、担任、支援者などで気付きを共有する。

③次につなげるために気付きを伝える。

★気付きの伝え方は領域（社会性、行動面、コミュニケーション面など）に分けることや年齢相応なのかという視点があると伝わりやすい。

<まとめ>

今回の研修会では、「気付き」の大切さを改めて教えていただきました。困っている子供の支援は通常の園・学級の先生方、保護者の「気付き」から始まるということ、そして支援学級でも支援学校でも「気付き」から支援の手立てを発想することは共通することということを改めて学ぶことができました。

今回の研修内容をそれぞれの現場で生かしていただければ幸いです。

北 洋輔先生、参加された先生方、ありがとうございました。

(担当：塚本)